

## 1. 評価報告概要表

[認知症対応型共同生活介護用]

## 【評価実施概要】

事業所番号	1970900161
法人名	医療法人 忠友会
事業所名	グループホーム武田の里
所在地	〒 407-0042 山梨県韮崎市神山町北宮地8 電話番号 0551-23-3377

評価機関名	山梨県社会福祉協議会		
所在地	山梨県甲府市北新1丁目2-12号		
訪問調査日	平成20年8月28日	評価確定日	平成20年10月29日

## 【情報提供票より】平成20年8月13日 事業所記入

## (1) 組織概要

開設年月日	平成16年10月1日						
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人				
職員数	16人	常勤	11人	非常勤	5人	常勤換算	9.6人

## (2) 建物概要

建物構造	軽量鉄筋 造り
	2 階建ての 1 ~ 2 階部分

## (3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	50,000 円	その他の経費(月額)	0 円	
敷 金	<input type="checkbox"/> 有( ) <input checked="" type="checkbox"/> 無			
保証金の有無 (入居一時金含む)	<input type="checkbox"/> 有( ) <input checked="" type="checkbox"/> 無	有りの場合 償却の有無	<input type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無	
食材料費	朝食	0 円	昼食	0 円
	夕食	0 円	おやつ	0 円
	または1日当たり		1200 円	

## (4) 利用者の概要 平成20年8月1日 現在

利用者人数	18 名	男性	2 名	女性	17 名
要介護1	1 名	要介護2	5 名		
要介護3	7 名	要介護4	4 名		
要介護5	1 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 82.5 歳	最低	60 歳	最高	93 歳

## (5) 協力医療機関

協力医療機関名	韮崎クリニック、韮崎相互病院、堀内歯科
---------	---------------------

## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】作成日 平成20年9月28日

医療法人として、クリニック、デイケア、居宅介護支援事業所等の併設施設があり、田園風景豊かで、自然環境に恵まれている。道路を挟み、中学校はあるが、住宅等は少なく、地域との関係づくりという面では、困難であるが、職員は利用者の思いや「その人らしさ」を大切に、日々の支援に取り組んでいる。管理者を中心に職員と一体となって、改善点に向けて職員レベルで前向きに取り組んでいる。改善課題もあるが、多機能な施設を活かし、地域に密着したサービスができる可能性を持った事業所として、今後期待できる。

## 【重点項目への取り組み状況】

重点項目	①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4) 前回の評価での改善点は多々あるが、家族等の報告については、お便りを3か月に1度、郵送するなど家族との連携を密にし、改善課題として取り組んでいる。
	②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4) 職員全員での評価の意義や話し合いが浸透せず、意見の反映もされていない。管理者は、職員の意見は大切に取り上げ、評価されるような取り組みを期待したい。
重点項目	③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6) 運営会議の中では、グループホームの事をもっと地域の方々に理解してもらうために、民生委員等の協力を得ている。会議は活動報告のみが多くなっている現状であるが、レクリエーションなどのボランティアをしてくれる方を家族を含めて会議の席で提案している。今後は、運営会議を活用して、利用者が地域の中でいかに交流し、安心して過ごせるかを取り上げていただく事を期待したい。
	④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8) お便りを3か月に1度、家族に郵送し、また、カンファレンス、モニタリング時には、電話で報告している。何か問題があったときは、電話でその都度、連絡をして対応している。家族から直接電話があるときも、その都度、対応している。玄関に苦情箱を設置されて機能している。家族も1か月に1度は、支払いの関係で必ず来てくれるようである。
重点項目	⑤	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3) 住宅の軒数も少なく、中学校が隣接して、地域と密着した繋がりを持つ事は難しく、日常の生活はホーム内が主である。老人会などに参加したいと考えている。地域の組織を把握し、もっと積極的に利用者と地域との連携に事業経営者、管理者、職員が一体となって取り組む事を期待したい。

## 2. 調査報告書

事業所名：グループホーム武田の里

(  部分は重点項目です )

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	開設時に8項目の理念を掲げ職員は、その理念の実現に向けて、日々努力している。人々とのふれあいを掲げてあるが、地域密着型サービスとしての役割を反映した内容になっていないと言えない。	○	一度作成したままではなく、地域や利用者のニーズ、事業所の状況の変化によって現状に合った理念の作成が望まれる。また、パンフレット記載の「痴呆」の言葉は、早急に「認知症」に直したパンフレットを作成する事が望まれる。
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	ミーティング時に管理者と職員は、問題点を話し合い、理念の実践に向けて取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	最近、地元の高校生がボランティアで来て、利用者と交流しているが、自治会などの参加もなく、地域との交流は、希薄である。	○	利用者が地域の一員として生活するためには、施設を理解してもらい、地域の行事等を運営会議の中で情報を収集し、積極的に交流する場面を作る事を期待したい。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	職員全員での評価の意義や話し合いが浸透していません、活用には至っていない。外部評価をスタッフを始め、誰でもが閲覧できる現状ではない。	○	外部評価の結果は、ミーティング時で報告し、改善に向けて質の確保、向上等、具体的に案の検討や実践につなげることを期待したい。
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議録もあるが、報告のみが多い現状である。老人会に参加したいが、地域の方々の施設への理解が浸透していないため、理解を深める取り組みをしている。会議の中では、レクレーションなどをしてくれる方を家族に提案している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市から事務的なアドバイスや指導を受けている程度で、日常的の関わりは、まだ出来ていない。	○	現場や利用者の課題解決のために、事業所だけで抱え込まず、市の担当者と共に解決することも踏まえ、日頃から、担当者との関係づくりを積極的に行い継続していくことが望まれる。
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	カンファレンス、モリタリング時には、電話をして報告している。また、3か月に1度、お便りを郵送し家族に対し、あらゆる接点で情報提供をしている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱が玄関に設置されているが、特に不満や苦情は、寄せられていない。特に意見がある場合は、事業所の方に直接来るため、グループホームには、間接的情報であるが反映させている。カンファレンス、支払時には必ず参加してもらい家族の意見を反映している。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	2階のユニットの利用者に関しては、反応があり職員が退職すると、気にして質問するが特にダメージはない。後で、職員が説明して、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	シフトが合えば研修会に出席しているが、全職員が参加できる体制になっていない。	○	研修に出席した職員は、全職員が共有できるよう、研修内容を報告する取り組みをし、また運営者は、管理者や職員が一律でなく、職員各自に応じた段階的、計画的な学びを受ける機会を確保するために、働きながら、トレーニングをしていくことを期待する。
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	峡北地区のケアマネの研修は、特にテーマを決めず、いろいろな事をそれぞれ話し合い、有意義な結果を得て、サービスの質の向上を目指している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	ほとんどの利用者が、併設のデイサービスを利用して、そのままグループホームの利用を開始する方が多く、職員も顔馴染みため、利用者も家族も安心して利用できる。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	利用者本人の気持ちにそっているつもりだが、どうしても職員中心のケアになりがちである。職員はお互いに日々利用者の様子をシートやカルテに記載し、情報を共有しながら利用者の思いを共感し、理解するよう努力している。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	併設のデイサービスから移ってくる方が多く日頃の情報を共有できるため、一人ひとりの思いや暮らしの希望など把握できる。その人に合ったような支援に努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	利用者、家族、担当職員で話し合い介護計画に反映させている。担当職員以外は、カンファレンスには関わっている。必要があれば、医師、看護師、理学療法士の指示やアドバイスを受け、プランを作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	3か月に1度、定期的に見直しを行っているが、利用者、家族の要望や変化に応じて介護計画の見直しを行っている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	併設の通所リハビリ、クリニック受診等利用者、家族の希望があれば対応しているが、本格的な多機能性の支援について検討中である。	○	事業所として、併設施設が幾つかあり、これまで積み上げた経験を活かし、柔軟な支援ができるように検討することを期待したい。
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ほとんどの利用者が、併設のクリニックでかかりつけ医の受診を、職員が付き添って行っている。主治医への受診は、基本的に家族の対応である。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	できるだけ長く施設で過ごすことを家族は願っているが、利用開始時にターミナルケアについて、具体的な話し合いをした事は無い。また、職員の意識もそれぞれ違い、具体的な話し合いは、まだ出来ていない現状である。	○	重度化した場合の対応のあり方を、本人、家族、かかりつけ医、看護師等、そして事業所側の考え方や意向が、ずれないように関係者全体の方針の統一を図っていくことが望まれる。また、事業所が日常の健康管理や急変時に、対応しうる最大の支援方法を踏まえて、チームで話し合うことを期待したい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	職員は日常、利用者の誇りやプライバシーを損ねない対応の徹底に取り組んでいる。個人情報保護法を理解し、秘密保持が図られている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	事業所のスケジュールに利用者の生活を合わせてしまい、どうしても、集団でのペースになってしまう。職員はできる限り一人ひとりの行動を規制することなく、楽しんでもらえるよう話し合っている。	○	職員の不足というハードの面もあるが、しかし利用者一人ひとり、日常の変化によって何をしたいのかを把握し、本人が主人公となって暮らせるよう支援が望まれる。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	味噌汁とご飯は、ホームで職員が作るが、副食は昼のみ、併設のデイサービスで調理したものを食べている。(朝、夕はホームで調理)2階の利用者は、配膳など手伝ってくれる。	○	利用者個々の力を活かしながら、職員と一緒に食事や調理することの喜び、楽しみを大切にする取り組みを期待したい。
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴は週2回で、併設のクリニックの医師がいる時間帯となっているが、希望に応じて自由に対応している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	職員は、アプローチを試みるが、中々、見出す事が出来ず模索中である。行事の時などは皿を拭く手伝いをしてくれる事がある。2階ユニットの利用者は、洗濯物をたたむ等手伝いをしてくれる方もいるが、日常的には少ない。	○	得意分野で一人ひとりの力を発揮し、本来の楽しみや役割のある暮らしができる場面づくりに、取り組むことを期待したい。
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	昨年は、福祉祭りに参加したが車椅子の方が多く外出支援は難しい現状である。利用者は日常外出の機会が殆どない。	○	自然環境の良さを活かし、お花見や車いすでの散歩、また外食などの楽しみを、少人数からでも一歩外に出る支援が望まれる。
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	玄関、リビングなど鍵はかけてない。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	昨年より、併設施設との合同避難訓練を年2回実施しているが、1回は利用者と一緒に、もう一回は職員のみとなっている。職員は、夜間の災害時の対応を心配している。	○	車椅子の利用者が多数いるため、災害時、夜間は特に介助が難しい現状である。運営推進会議の場で、話し合い、地域の方々の協力が得られるような体制を作っていくことを期待したい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとりの一日の水分量など記録され、職員は共有している。献立については、栄養士が作り点検している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関には季節感のある花が飾られ、居間のソファやベランダのベンチなどの共有空間は、居心地良く過ごせるよう工夫されている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者の使い慣れたものが置かれ、昼での生活がしやすい利用者には、ベットではない配慮をし、職員はその人らしい居心地のよい居室づくりに取り組んでいる。		